

平成28年度 基盤研究（S） 審査結果の所見

| | |
|---------|--|
| 研究課題名 | 糖ペプチドを含有する大・中分子の合成を指向した革新的合成触媒の開発 |
| 研究代表者 | 竹本 佳司（京都大学・大学院薬学研究科・教授） ※平成28年6月末現在 |
| 研究期間 | 平成28年度～平成32年度 |
| 審査結果の所見 | <p>抗体、核酸、糖など主に生物学的手法により合成した大分子医薬品は、極めて高額であり単一化合物でないことも問題となっている。このため、De Novo 合成に威力を発揮する化学合成手法の開発が不可欠である。応募者は酵素にヒントを得たチオウレア触媒やチオウレア-ボロン酸ハイブリッド触媒を独自に開発することで新たな研究分野を開拓し、国際的にも評価されている。本研究では、開発した触媒の各部位の最適化を図りながら、これまで困難であったペプチド結合やグリコシル結合を超効率的に合成する手法を確立することを目指しており、先駆的かつ実現性のある研究内容であり、基盤研究（S）として採択すべき課題であると判断した。</p> |